

第 16 回日本薬局学会学術総会

ポスター発表

抗悪性腫瘍薬に対するツールを用いた服薬フォローアップ ～副作用の早期発見・早期対応を目指して～

総合メディカル（株） そうごう薬局 豊洲店
菊池 麻子

【目的】抗がん薬治療において副作用は起こり得るものであり、適切な服薬フォローアップ（以下 FU）は患者 QOL の向上に必要とされている。しかし、副作用の起こりやすい時期や症状は抗がん薬ごとに異なっており、FU の方法も標準化されておらず、漠然とした体調変化の確認しか行えていなかった。そこで、副作用の好発時期をメインに、抗がん薬ごとの FU 内容をまとめた「FU シート」を作成し、運用効果を検証した。

【方法】東京地区の 7 薬局で処方される抗がん薬 16 種類に対し、それぞれの副作用の好発時期を電話推奨時期として記したシートを作成した。2020 年 1 月 1 日～2021 年 5 月 31 日の間に来局し、対象の抗がん薬が処方された患者に対し、シートを用いた FU を提案した。同意を得られた患者に、電話推奨時期に FU を実施した。副作用が確認され、「シートに記載された医療機関情報提供目安に該当する症状がある」もしくは「医療機関が把握していない副作用を発見した」場合、トレーシングレポートを用いて医療機関に情報共有をした。

【結果】期間内に対象となる抗がん薬が処方された患者 132 名の内、FU に同意したのは 42 名であった。その全員に対し、それぞれの電話推奨時期に、計 50 件の FU を実施した。その結果、15 件の副作用が確認され、トレーシングレポートで医療機関へ情報共有したのは 7 件であった。情報共有の内容はいずれも「医療機関が把握していない副作用を発見した」場合に該当した。

【考察】シートを使用することで、薬剤師の経験などに左右されず、副作用の好発時期に適切な FU を行うことが可能になったと考えられる。また、副作用が発生した約半数が「医療機関が把握していない副作用を発見した」ケースであり、病院への有益な情報提供につながったと考えられる。以上より、抗がん薬使用患者の FU において、副作用の好発時期を意識したシートによって標準化された FU の運用効果は高いと考えられる。